

パンタナール通信

南北米福地開発協会

会報

2012年6月1日

105号



カピバラに心癒されて

パンタナールの6月は、河の水位も上がって今までの支流の河川敷に水が入るため、川幅が広がり、動物たちが身近に見られるようになります。カピバラは本来おとなしい動物で、警戒心も強いのですが、人や車が通る道端でも、誰も危害を加えないということが分かれば、かなり近づいても平気でくつろいでいます。

子供たちを伴う家族にいる時は、必ずお父さんが見張りをしていて、少しでも危険を感じれば、「ウォッス！」と叫び、家族は一斉に水に飛び込みます。家族を見守ったお父さんが最後に逃げます。お父さんの家族愛は身を挺している分けです。家族が草を食んだり、休んだり、子供同士じゃれあったり、何をしても最高に癒される愛すべき動物です。背中の小鳥は、カピバラの背に着いた虫を食べてくれるので、背中や頭の上にとまっても、カピバラは全くいやがりません。

写真は8匹ほどいた子供たちが育って、もう大人になってきた仲良し兄弟のショットです。
(飯野記)

2012年第12回国際協力青年奉仕隊



ミンガグアス市の市政には市を創設したミンガグアスの父、グインド・コロネル氏の市の名称に示されるように「大きくともに働き、ともに健康に」という精神が今も息づいています。プロジェクトの成功のため、市民の協力と教育機関との密なる連携が必要となります。とくに環境意識を高めるための教育が、重要になります。今後の予定は、第一ステップは、町の浄化・美化を中高生を中心に実践していきます。第二ステップは、教育関係者の協力による市民への意識啓蒙です。第三ステップは、植樹活動の推進です。第四ステップは、市民の憩いの場の造成と街路の植樹です。

皆様に期待 ミンガグアス市長ならびに環境庁の責任者、学校関係者との会合(写真)で南北米福地財団がプロジェクトを支援して、市の緑化を推進します。計画は三年の期間で行い、五万本の苗木の支援と第十二回国際協力青年奉仕隊による植樹奉仕が九月にミンガグアス市で行われます。植樹した苗木は、従来通り市と学校関係者で責任を持ち、管理されることになります。

クリーンな環境モデル都市建設を！！

プロジェクトの意義(ミンガグアス市環境庁の計画書より)

アルトパラナ州における森林の劣化はその地への移住を始めた時から議論されてきました。しかし、その地における移住の斡旋が始まって以来、そのことについてはよく知られていることでしたが当局では何らの対策は練られてはいませんでした。放牧による浸食とともに人間の生活地域が広がるとともに土地の持つ潜在力が低下、減少し利用不可能な不毛の地となるか、殺虫剤によってある種においては死に絶え、または絶滅の危機に陥るようになっていきます。このような現状を危惧し、ミンガグアス市において、とくに環境局を通し、解決のためのプロジェクトを始めることを決定しました。そのため、市民が憩うことのできるレクリエーション地域と緑の地域を設定し、その場所に元々パラグアイ原産種の樹木と外来種の樹木を植林する準備をしているところです。その場所は今後、アルトパラナ州の肺となっていきます。



市民が集える公園建設の敷地

第10回国際協力青年奉仕隊の実り

2010年パラグアイ東部地区、ミンガグアス市との共催で地球環境保護のため、第10回国際協力青年奉仕隊も参加し、市をあげての植樹活動を展開しました。このときは、50の学校に100本ずつ5000本の植樹を展開しました。その後、学校の先生方と生徒たちが中心となり水遣りや、動物や昆虫からの害から守ってきました。子供たちとともに、若木も逞しく成長していました。



2010年の第10回奉仕隊による植樹

特に植樹後の若木は、乾燥や動物の害に遭いやすく、枯れてしまうことがたびたびありました。そうした点で管理が行き届いていることは、今後に対しての大きな希望となります。



一年半でたくましく成長しました

日本人イグアス移住地訪問

今年、第12回国
際協力青年奉仕隊の
奉仕活動の拠点の一



イグアス移住地育苗所は年間16万本以上を生産



6年前に植えられた東芝の森

つ、ミンガグアス市の隣に、日本人移住地イグアスがあります。ここはパラグアイにおける最も最近の移住地で1961年に入植、650人ほどが農業を中心に活躍しております。日本人会も充実しており、積極的に近隣への奉仕も行い、特に植林活動は今まで熱心に勧めてきました。6年前、東芝が創業150周年を記念し、150万本の植樹を世界各地で行う記念行事をした時、パラグアイではイグアス移住地に2万本の植林をしました。

私達も関心があり、たびたび、その結果はどうであるのかを知るため、国道沿いでもあったので見学に行きましたがほとんど育っていないことを残念に思っていました。私などはやはり苗木を植えただけでは東部のどんな良い土地でも育たないのではという気持ちもありました。しかし、今回、移住地を訪問し、直接、環境管理を担当し、植林に責任を持っている幸坂さんに尋ねました。「前任者が東芝から話ががあった時、国道沿いの最も目立つ場所に植え付ける事を決定し、植林を行ったがその場所が粘土層の湿地帯で木が育ちにくい事が分かってきた。そのため、何年しても木が育たず、東芝に対して責任を感じ今までに2回、その場所の土壌を改良し、苗を再度植え付ける努力をしてきました。それでも育ちが悪いので頭を痛めて、今一生懸命、対策を練っているところです。」

200万本を20年計画で

私の早とちりで時々、レダの植樹活動の中で東芝の森について

ケアをしなければどんなに良い土地でも簡単でないとの話をしていたことに申し訳なく感じました。2万本の一部を東芝の森として他の地域に植え直しており、その木は順調に育っていました。

現在は日本の大手企業の援助を受け、移住の時、森林を伐採し、農地にした土地を、再度、森林に再生する法案が国会で数年前に通ったので、日本人移住地でも森林再生が始まり、企業からの支援を充当しているとのことでした。膨大な計画で1440ヘクタール、200万本の木を植林するとのことで20年計画で進めています。

国家規模での温暖化対策を

現在の育苗所は年間16-8万本の苗木ができるそうです。エステ市の隣の街インガグアス市

のプロジェクトに協力をお願いすると「必要なときはコンタクトをして下さい。」との事で、とても積極的に対応してくれます。



イグアス移住地に行き、彼らが経団連、企業、そしてオイスカ等との交流により、大きな支援を得る道を作っていることには感心しました。支援を得た後に、どのようにその支援を使ったかを綿密に報告することにより、信頼を得てきました。現在、日本人1人と4人の現地人で育苗所はまかなってます。私達も今後、さらなる渉外も進め、大きなプロジェクトを通して、国家規模での温暖化対策に着手していきたいと思います。(柴沼記)



エステ市育苗所

第12回国際協力青年奉仕隊員募集



第12回国際協力青年奉仕隊員募集要綱

- 期 間：2012年8月25日（土）～9月10日（月）
8/24（金）：オリエンテーション・研修を行います。 8/25成田発
後日、参加決定者にスケジュールの詳細を通達します。
- 活動場所：パンタナール地域：マリア・アウシリアドーラ村、レダ基地、エステ市近郊
活動内容：マリア・アウシリアドーラ村植樹と学校校舎修理等
生徒代表等と植樹及び学校を中心として村と文化交流、
レダにて奉仕活動、自然探訪、学習会、乗馬、釣り体験、世界遺産訪問
- 参加資格：18歳以上25歳まで（健康に自信のある男女）
- 参加条件 ①小論文（400字以内）提出
テーマ：「参加の動機及び将来の夢」 提出期限：6月20日
提出先：南北米福地開発協会（FAX・Emailも可）
②小論文に各紹介者の推薦文を添付すること（希望者は事務局に用紙を要請してください）
- 合格発表：6月25日 当会で審査の上、直接該当者に連絡致します。
- 募集人数：8～10名 ●参加費用：15万円
成田～アスンシオン往復航空チケット代、海外保険代金、レダ滞在費等、は主催者負担。
（小遣い、家から成田までの往復費用などは個人負担）
- 申し込み及び問い合わせ先：南北米福地開発協会事務局 担当：戸石
TEL：044-829-2821 FAX：044-829-2820 Email：office@asd-nsa.jp

地球家族として

自然を守りましょう

南北米福地開発協会

会員募集中

南米、パラグアイパンタナール地域
へのエコツアー ならびに植林活動
を通じて
生態系の維持と強化を促進し、その
地域をモデルとし、
世界に環境保護の大切さを
訴えています。

会費は月五〇〇円、毎月、パンタナール通信を送ります。

また、各種のセミナー、エコツアー等の案内をいたします。

南北米福地開発協会 事務局

〒221-3100

神奈川県川崎市高津区

溝口三十一番十五

岩崎ビル4F

電話

〇四四一八二九一二八二二

Fax

八二九一二八二〇

会費納入 郵便口座

一〇一八〇一七七六八〇四七一

代表 柴沼邦彦

Eメール

office@asd-nsa.jp

ホームページ

http://www.asd-nsa.jp